長崎西南部の史蹟・名勝・天然記念物等の紹介通信
とはち通信
第　７　号
※一説によると、かつて長崎西南部一帯を総称して戸八ヶ浦（とはちがうら）と呼ばれた時期がありました。現在、この名は存在しませんが、長崎西南部に対する尊敬の念をこめてこのようなタイトルをつけてみました。
二〇〇八年 十一月 一日　落矢八郎

金鍔地区について

●金鍔次兵衛

みなさん、金鍔という名前を聞いたことがありますか？　地元の方は一度は聞いたことがあるでしょう。現在、一般国道四九九号に金鍔というバス停がありますが、私もこれで金鍔の地区名を覚えましたし、子供ながらに面白い地区名だと思った記憶があります。今回は金鍔地区について私の知る限りの話をしましょう。

金鍔は現在、長崎市戸町四丁目に該当する地区です。実はこの地区名はある人物が関係しています。それは金鍔次兵衛といわれる人で、寝る間も惜しんで布教活動を行い、そして殉教された方です。金鍔という地区の由来ははここからきてます。

次兵衛氏は十七世紀のはじめに大村に生まれ、幼少の時に有馬のセミナリヨ（神学校）に入学しました。しかし、その後に禁教令が出されたため、セミナリヨは閉鎖されてしまいました。氏は宣教師とともに日本から追放されてしまいますが、のちに日本に戻って伝道士として密かに宣教活動をしました。今度はフィリピンに渡ってアウグスティノ会に入会してトマス・デ・サン・アウグスティノという修道士になりました。そして、長崎に戻って昼は馬丁として長崎奉行所で働き、夜は働いた給料で不眠不休の宣教活動を行いました。やがて奉行所は彼の存在に気づいて捕えようとしますが、氏はこれに対し**金色の鍔**がついた刀をさした武士に変装したりして追手をかわしました。現在、この話が金鍔地区の由来として伝承されています。その頃、氏が隠れたとされる洞穴が現在も残っています。また、長崎市外海町にも次兵衛岩と呼ばれる隠れ家があります。奉行所は氏をなかなか捕えることができませんでしたが、戸根村（長崎市琴海町）に隠れている情報を入手し、平戸・大村・島原・佐賀藩による西彼杵半島全体の山狩りを半島の北から開始しました。大規模な山狩りでしたが、結局、捕えることはできませんでした。それもそのはず、氏は江戸に逃れて宣教活動を行っていたのです。しかし、最後は浦上淵村の人の出訴によって捕まり、氏は三十五歳で殉教しました。

以上、金鍔次兵衛氏について簡単にその生涯を紹介しました。もっと詳しく知りたい方はネット上で知ることができます。そちらを参考にして下さい。

次に近代の金鍔地区の話をします。

●佐古遺骨事件

一九三八年の長崎市史に興味深い記事がありましたので紹介をします。

「明治十年大徳寺跡なる軍人軍屬遺骨を佐古狐岳に移葬するに當り、當局其の監督に粗漏あり、役夫等遺骨を叺に包みて金鍔谷海岸に投じた。當時此の地は長崎市塵埃棄却所で以て海岸の埋築を行つて居た。然るに事發覺して有名なる佐古遺骨事件を生じ一時の耳目を聳動した。城山水本城の古阯はその傍にある。」

これによると、亡くなった軍人・軍属の方の遺骨を間違ってムシロの袋に入れて長崎市塵埃棄却所の埋立地海岸に投じたそうです。これは佐古遺骨事件として世間に注目されたようです。遺骨は戊辰戦争で亡くなられた方のものだったのでしょうか。

最後に金鍔地区の海岸の字について紹介します。

●金鍔海岸の字

現在、金鍔地区に国道が通っていることは先に述べました。私は自転車で出かける時、必ずこの道を通ります。その時に気づいたことがあります。それは自転車で戸町方面へ向かっていると、ちょうど、金鍔次兵衛氏の隠れ家の辺りから坂の勾配が急になるということでした。その辺りから西の一帯は埋立地では？　と気になったので、周辺の字を調べたところ「**岩井（祝）ノ浦**」という字名に該当するようです。この字から察するに、かつては隠れ家の付近まで長崎市戸町一丁目付近のような入江があったのではないかと想像しました。氏の隠れ家周辺は険しい山々が三方向（東・南・北）に存在し、西は海に面しています。奉行所に捕まらないためにこのような峻険な場所を選定したのでしょうか？

（文責　落矢八郎）

事務局
とはちろう
●ホームページ
とはちろうもしくはとはち通信で検索
●メール
h_ochiya@yahoo.co.jp

写真上：金鍔谷近景（北から撮影）…現在，隠れ家といわれる洞穴は霊場となっており，たくさんの石仏が安置されています。
写真下：岩井（祝）ノ浦近景（国道から撮影）…写真中央は埋立地ですが，かつては金鍔谷付近まで入江があったと思われます。